

修善寺城（伊豆市本立野）

中世に畠山国清が築いたと伝わっています。

標高 248m の城山山頂にある本丸跡は平地で、石塁や井戸跡が今も名残をとどめています。

康安元年（1361 年）、室町幕府の関東管領足利基氏の執事であった畠山国清は、第二人と共に基氏に謀反をおこし、五百騎を用いて伊豆に逃げ下り、三津・金山・修善寺の三城に立てこもった。やがて関八州の軍勢二十万騎に攻め込まれ、不利の戦いを重ねながら最後にこの修善寺城に立てこもったが、水と食料を絶たれ、翌年（1362 年）降伏した。

「伊豆市公式観光サイト」による

康安元年・正平 16 年(1361 年)畠山国清によって築かれたと云われる。

畠山国清は鎌倉公方足利基氏を補佐して伊豆国守護となり、延文 4 年・正平 14 年(1359 年)には関東武士を率いて上洛し南朝方勢力と戦ったが、康安元年・正平 16 年(1361 年)に失脚して追放された。

追放された畠山国清はかつて守護職にあった伊豆国へ下って挙兵、二人の弟を三津城と金山城に置き、自身は修善寺城を築いて本城とした。足利基氏は関八州の兵を集め安保泰規・波多野高道・岩松直国らを将として伊豆へ攻めいった。これに対して畠山氏が頼みとしていた伊豆の諸将は畠山氏に味方するものが少なく、頼みの狩野介も味方にできなかった。これによって畠山氏は三津城と金山城を自ら焼き払い本城である修善寺城に兵を集めて足利軍を迎え撃ったが、十ヶ月におよぶ籠城戦の末、兵糧が尽きて国清は足利基氏の降伏勧告を受け降服した。

修善寺城は狩野川と桂川に挟まれた標高 248m の城山山頂に築かれていた。

修善寺城のある城山は現在は無線中継施設が建っているが、以前にはロープウェイがあり小動物園などが設けられて公園化されていたようである。それによるものか、山頂を中心として北東から南西に向かって段々と続く平地にはコンクリートの基礎部分の残骸などがあり、遺構と区別が難しい。山頂の主郭部には畠山国清の古戦場の碑と石組みの井戸がある。

南の山腹にある城山神社から登山道がある。城山神社の参道はやや狭く、入口がわかりづらいが修善寺東小学校の西側からコンクリートの車道があり、終点に駐車できる。登山道は境内向かって左側にあり、最初につづら折りに登ると南西の尾根先から、道なりに登ると山腹の遊歩道で登ることができる。

「城郭放浪記」による

城山（しろやま）は、静岡県伊豆市にある標高 248m の山。

伊豆市中心部の西側に位置し、東麓には狩野川が流れ、その川岸に市役所と伊豆赤十字病院がある。、南西方向には修善寺温泉街がある。山頂には修善寺テレビ中継局が置かれている。

1964 年（昭和 39 年）に地元旅館組合が中心となって、修善寺ロープウェイ（別名 城山ロープウェイ）が山の北西に開業し、26 人乗りのゴンドラが山麓駅から修善寺川（桂川）を越え、山頂駅まで片道 4 分で客を運んでいた。当時の山頂には展望台や飲食施設などがあった。1977 年（昭和 52 年）にはロープウェイが廃止された。現在では当時ほど眺めはよくないが南東方向に展望がある。

南北朝時代には畠山国清が山頂に『修善寺城』を構え、1361 年（南朝：正平 16 年、北朝：康安元年）に第二人と共に謀反を起し、沼津市と伊豆の国市の境界にある発端丈山の『三津城』と、伊豆の国市の『金山城』の 3 城で鎌倉公方勢を迎え打ち、最後は修善寺城にて籠城戦を展開したが兵糧が尽き果て、翌年(1362 年)降伏した。現在でも山頂には城のなごりの地形が残る。

Wikipedia による

